



レイヤ 2 イーサネット インターフェイスの設定

この章では、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して、Catalyst 4500 シリーズ スイッチ上でレイヤ 2 スイッチング用の FastEthernet インターフェイスと GigabitEthernet インターフェイスを設定する手順について説明します。設定上の注意事項、設定手順、および設定例についても示します。この章の設定は、スーパーバイザ エンジンのアップリンク ポートを含むすべてのモジュールの FastEthernet および GigabitEthernet インターフェイスに適用されます。

この章の主な内容は、次のとおりです。

- 「レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要」 (P.15-1)
- 「レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定」 (P.15-5)
- 「レイヤ 2 インターフェイス設定時の注意事項および制約事項」 (P.15-5)
- 「レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定」 (P.15-6)



(注)

レイヤ 3 インターフェイスの設定手順については、第 25 章「レイヤ 3 インターフェイスの設定」を参照してください。



(注)

この章で使用するスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122sr/cr/index.htm>

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要

ここでは、Catalyst 4500 シリーズ スイッチでのレイヤ 2 イーサネット スイッチングの機能について説明します。

- 「レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要」 (P.15-2)
- 「VLAN トランクの概要」 (P.15-3)
- 「レイヤ 2 インターフェイス モード」 (P.15-4)

レイヤ 2 イーサネット スイッチングの概要

Catalyst 4500 シリーズ スイッチでは、レイヤ 2 イーサネット セグメント間のパラレル接続を複数同時に確立できます。イーサネット セグメント間のスイッチド接続は、パケットの有効期間だけ存続します。以降のパケットには、別のセグメント間に新しい接続が確立されます。



(注)

Cisco IOS リリース 12.1(13)EW の場合、Catalyst 4500 シリーズ スイッチは 1600 バイトのパケットを処理できます。「オーバーサイズ」として処理して廃棄することはありません。このサイズは、一般的な IEEE (米国電気電子学会) イーサネット Maximum Transmission Unit (MTU; 最大伝送ユニット) (1518 バイト) および 802.1Q MTU (1522 バイト) よりも大きな値です。大容量パケットを処理するには、ネットワーク上で 2 つのネスト化した 802.1Q ヘッダーと Multiprotocol Label Switching (MPLS; マルチプロトコル ラベル スイッチング) のサポートが必要です。

Catalyst 4000 ファミリーは、高帯域のデバイスおよび多数のユーザに起因する輻輳問題を解決するために、デバイス (サーバなど) ごとに専用の 10 Mbps、100 Mbps、または 1000 Mbps セグメントを割り当てます。スイッチの各イーサネット インターフェイスは、それぞれ別のイーサネット セグメントに接続されているので、スイッチング環境が適切に設定されていれば、サーバは全帯域幅にアクセスできます。

衝突はイーサネット ネットワークにおける大きな障害になりますが、有効な解決策の 1 つは全二重通信です。イーサネットは通常、半二重モードで動作します。つまり、各ステーションは送信または受信のどちらか一方しか実行できません。全二重モードでは、2 つのステーション間で同時に送受信を行うことができます。パケットを同時に双方向に流すことができる場合、有効イーサネット帯域幅は 2 倍になり、10 Mbps インターフェイスで 20 Mbps、FastEthernet インターフェイスで 200 Mbps になります。Catalyst 4000 ファミリー スイッチの GigabitEthernet インターフェイスは全二重モード専用で、2 Gbps の有効帯域幅を提供します。

セグメント間のフレーム スイッチング

Catalyst 4500 シリーズ スイッチ上の各イーサネット インターフェイスは、1 台のワークステーションまたはサーバに接続することも、ハブに接続し、ハブを経由して複数のワークステーションまたはサーバをネットワークに接続することもできます。

標準的なイーサネット ハブでは、すべてのポートがハブ内の共通のバックプレーンに接続され、ハブに接続されたすべてのデバイスが、ネットワークの帯域幅を共有します。2 つのデバイス間で、帯域幅を大量に使用するセッションを確立した場合には、そのハブに接続された他のすべてのステーションで、ネットワーク パフォーマンスが低下します。

パフォーマンスの低下を抑えるために、スイッチは各インターフェイスを個々のセグメントとして処理します。異なるインターフェイス上のステーションが相互に通信する必要がある場合、スイッチは一方のインターフェイスから他方のインターフェイスにワイヤ速度でフレームを転送して、各セッションが全帯域幅を利用できるようにします。

インターフェイス間でフレームのスイッチングを効率的に行うため、スイッチはアドレス テーブルを維持します。フレームがスイッチに着信すると、ルータは送信元ステーションの MAC アドレスと、フレームを受信したインターフェイスを対応付けます。

MAC アドレス テーブルの作成

Catalyst 4000 ファミリーは、受信したフレームの送信元アドレスを使用して、MAC アドレス テーブルを作成します。MAC アドレス テーブルに登録されていない宛先アドレスを持つフレームをスイッチが受信すると、そのフレームを受信したインターフェイスを除き、同一 VLAN のすべてのインターフェイスにフレームをフラッドします。宛先デバイスから応答があると、スイッチは該当する送

信元アドレスおよびインターフェイス ID をアドレス テーブルに追加します。スイッチは以降のフレームについて、すべてのインターフェイスにフラッディングすることなく 1 つのインターフェイスに転送します。

アドレス テーブルには、エントリのフラッディングを伴わずに、32,000 以上のアドレス エントリを保存できます。スイッチは、設定可能なエージング タイマーによって定義されるエージング メカニズムを使用しているため、アドレスが非アクティブな状態のまま指定時間（秒）が経過すると、そのアドレスはアドレス テーブルから削除されます。

VLAN トランクの概要

トランクは 1 つまたは複数のイーサネット スwitチ インターフェイスと、ルータやスイッチなど別のネットワーク デバイス間のポイントツーポイント リンクです。トランクは単一のリンクを介して複数の VLAN トラフィックを送ります。これにより、ネットワーク全体に VLAN を拡張できます。

次の 2 種類のトランク カプセル化方式が、すべてのイーサネット インターフェイスで使用可能です。

- Inter-Switch Link (ISL; スwitチ間リンク) プロトコル : ISL は、シスコ独自のトランク カプセル化方式です。



(注) WS-X4418-GB および WS-X4412-2GB-T モジュール上のブロッキング ギガビット ポートは、ISL をサポートしていません。WS-X4418-GB モジュールでは、ポート 3 ~ 18 がブロッキング ギガビット ポートです。WS-X4412-2GB-T モジュールでは、ポート 1 ~ 12 がブロッキング ギガビット ポートです。

- 802.1Q : 802.1Q は、業界標準のトランク カプセル化方式です。

トランクは、1 つのイーサネット インターフェイスまたは EtherChannel バンドルに対して設定できます。EtherChannel の詳細については、第 19 章「EtherChannel の設定」を参照してください。

イーサネット トランク インターフェイスは、複数のトランキング モードをサポートしています (表 15-2 を参照)。さらに、トランクでの ISL または 802.1Q カプセル化の使用、またはカプセル化タイプの自動ネゴシエーションを指定することもできます。

トランキングの自動ネゴシエーションを実行する場合は、インターフェイスが同一 VTP ドメインにあることを確認してください。異なるドメイン内のインターフェイスを強制的にトランキングするには、**trunk** キーワードまたは **nonegotiate** キーワードを使用します。VTP ドメインの詳細については、VTP を参照してください。

トランク ネゴシエーションは、Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) によって管理されます。DTP は、ISL トランクおよび 802.1Q トランクの両方で自動ネゴシエーションをサポートします。

カプセル化タイプ

表 15-1 に、イーサネット トランクのカプセル化タイプを示します。

表 15-1 イーサネット トランクのカプセル化タイプ

カプセル化タイプ	カプセル化コマンド	目的
ISL	<code>switchport trunk encapsulation isl</code>	トランク リンクに ISL カプセル化を指定します。

表 15-1 イーサネット トランクのカプセル化タイプ (続き)

カプセル化タイプ	カプセル化コマンド	目的
802.1Q	<code>switchport trunk encapsulation dot1q</code>	トランク リンクに 802.1Q カプセル化を指定します。
ネゴシエーション	<code>switchport trunk encapsulation negotiate</code>	インターフェイスが近接インターフェイスとネゴシエーションを行い、近接インターフェイスの設定および機能に応じて、ISL トランク (優先) または 802.1Q トランクになるよう指定します。

リンクが ISL トランクまたは 802.1Q トランクのどちらになるかは、接続された 2 つのインターフェイスのトランッキングモード、トランクカプセル化タイプ、およびハードウェア機能によって決まります。

レイヤ 2 インターフェイス モード

表 15-2 に、レイヤ 2 インターフェイス モードを示し、イーサネット インターフェイスにおける各モードの機能について説明します。

表 15-2 レイヤ 2 インターフェイス モード

モード	目的
<code>switchport mode access</code>	インターフェイスは永続的な非トランッキングモードになり、リンクを非トランッキングリンクに変換するためにネゴシエーションを行います。インターフェイスは、近接インターフェイスが変更されない場合でも、非トランクインターフェイスになります。
<code>switchport mode dynamic desirable</code>	リンクからトランッキングリンクへの変換をインターフェイスにアクティブに試行させます。近接インターフェイスが trunk 、 desirable 、または auto モードに設定されていれば、インターフェイスはトランクインターフェイスになります。
<code>switchport mode dynamic auto</code>	近接インターフェイスが trunk モードまたは desirable モードに設定されている場合、インターフェイスのリンクをトランッキングリンクに変換します。このモードは、すべてのイーサネットインターフェイスのデフォルトモードです。
<code>switchport mode trunk</code>	インターフェイスは永続的なトランッキングモードになり、リンクをトランッキングリンクに変換するためにネゴシエーションを行います。インターフェイスは、近接インターフェイスが変更されない場合でも、トランクインターフェイスになります。
<code>switchport nonegotiate</code>	インターフェイスを永続的なトランッキングモードにしますが、インターフェイスが DTP フレームを生成しないようにします。トランッキングリンクを確立するには、近接するインターフェイスを手動でトランクインターフェイスとして設定する必要があります。



(注) DTP はポイントツーポイント プロトコルです。ただし、インターネットワーキング デバイスによっては、DTP フレームが正しく転送されないことがあります。この問題を避けるために、これらのリンク上でトランッキングを行わない場合は、DTP をサポートしないデバイスに接続されているインターフェ

イスが、**access** キーワードを使用して設定されていることを確認してください。DTP をサポートしないデバイスへのトランキングをイネーブルにするには、**nonegotiate** キーワードを使用して、インターフェイスをトランクにし、DTP フレームが生成されないようにします。

レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定

表 15-3 に、レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定を示します。

表 15-3 レイヤ 2 イーサネット インターフェイスのデフォルト設定

機能	デフォルト値
インターフェイス モード	switchport mode dynamic auto
トランク カプセル化	switchport trunk encapsulation negotiate
VLAN 許容範囲	VLAN 1 ~ 1005
プルーニングに適格な VLAN 範囲	VLAN 2 ~ 1001
デフォルト VLAN (アクセスポート用)	VLAN 1
ネイティブ VLAN (802.1Q 専用トランク用)	VLAN 1
STP ¹	すべての VLAN でイネーブル
STP ポート プライオリティ	128
STP ポート コスト	<ul style="list-style-type: none"> • 10 Mbps イーサネット LAN ポートでは 100 • 10/100 Mbps FastEthernet ポートでは 19 • 100 Mbps FastEthernet ポートでは 19 • 1000 Mbps GigabitEthernet ポートでは 4 • 10,000 Mbps 10-GigabitEthernet LAN ポートでは 2

1. STP = Spanning-Tree Protocol (スパニング ツリー プロトコル)

レイヤ 2 インターフェイス設定時の注意事項および制約事項

レイヤ 2 インターフェイスを設定する場合は、次の注意事項および制約事項に留意してください。

- 802.1Q トランクを使用して接続している Cisco スイッチのネットワークでは、トランク上で許容される VLAN ごとに 1 つのスパニング ツリー インスタンスが維持されます。他社製の 802.1Q スイッチが維持するのは、トランク上で許容されるすべての VLAN に対してスパニング ツリー インスタンス 1 つだけです。

802.1Q トランクを使用して Cisco スイッチを他社製のデバイスに接続する場合、Cisco スイッチは、トランクのネイティブ VLAN のスパニング ツリー インスタンスを、他社製の 802.1Q スイッチのスパニング ツリー インスタンスと結合します。ただし、各 VLAN のスパニング ツリー情報は、他社製の 802.1Q スイッチのクラウドと切り離され、Cisco スイッチで維持されます。Cisco スイッチを切り離している他社製の 802.1Q のクラウドは、スイッチ間の単一トランク リンクとして扱われます。

■ レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

- 802.1Q トランクのネイティブ VLAN が、トランク リンクの両端で同一であることを確認してください。トランクの一端の VLAN と反対側の VLAN が異なると、スパニング ツリー ループの原因になります。
- 802.1Q トランクのいずれかの VLAN でスパニング ツリーをディセーブルにしても、スパニング ツリー ループが発生する場合があります。

レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

ここでは、Catalyst 4000 ファミリー スイッチにおけるレイヤ 2 スイッチングの設定手順について説明します。

- 「レイヤ 2 トランクとしてのイーサネット インターフェイスの設定」(P.15-6)
- 「レイヤ 2 アクセス ポートとしてのインターフェイスの設定」(P.15-8)
- 「レイヤ 2 設定のクリア」(P.15-10)

レイヤ 2 トランクとしてのイーサネット インターフェイスの設定



(注)

レイヤ 2 インターフェイスのデフォルトは、**switchport mode dynamic auto** です。近接インターフェイスがトランキングをサポートし、**trunk** モードまたは **dynamic desirable** モードに設定されている場合、リンクはレイヤ 2 トランクになります。デフォルトでは、トランクはカプセル化方式をネゴシエーションします。近接インターフェイスがそれぞれ ISL と 802.1Q のカプセル化方式をサポートし、いずれのインターフェイスもカプセル化タイプのネゴシエーションに設定されている場合、トランクは ISL カプセル化方式を使用します。

インターフェイスをレイヤ 2 トランクとして設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface {fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port	設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# shutdown	(任意) 設定が完了するまでトラフィックを流さないようにするため、インターフェイスをシャットダウンします。
ステップ 3	Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation {isl dot1q negotiate}	(任意) カプセル化方式を指定します。 (注) このコマンドと一緒に isl または dot1q キーワードを指定して、デフォルト モード (negotiate) ではサポートされない switchport mode trunk コマンドをサポートするようにします。
ステップ 4	Switch(config-if)# switchport mode {dynamic {auto desirable} trunk}	インターフェイスをレイヤ 2 トランクとして設定します (インターフェイスがレイヤ 2 アクセス ポートの場合、またはトランキング モードを指定する場合だけ)。

	コマンド	目的
ステップ 5	Switch(config-if)# switchport access vlan vlan_num	(任意) インターフェイスがトランキングを停止した場合に使用するアクセス VLAN を指定します。アクセス VLAN がネイティブ VLAN として使用されることはありません。 (注) vlan_num パラメータは、1 ~ 1005 の単一の VLAN 番号または 2 つの VLAN 番号 (小さい方が先、ダッシュで区切る) で指定する VLAN 範囲です。カンマで区切った vlan パラメータの間、またはダッシュで指定した範囲の間には、スペースを入れないでください。
ステップ 6	Switch(config-if)# switchport trunk native vlan vlan_num	802.1Q トランクの場合、ネイティブ VLAN を指定します。 (注) ネイティブ VLAN を設定しない場合、デフォルトが使用されます (VLAN 1)。
ステップ 7	Switch(config-if)# switchport trunk allowed vlan {add except all remove} vlan_num[, vlan_num[, vlan_num[, ...]]	(任意) トランク上で許容される VLAN のリストを設定します。デフォルトでは、すべての VLAN が許容されます。トランクからデフォルト VLAN を削除することはできません。
ステップ 8	Switch(config-if)# switchport trunk pruning vlan {add except none remove} vlan_num[, vlan_num[, vlan_num[, ...]]	(任意) トランクでプルーニングが許容されている VLAN のリストを設定します (「VLAN トランキングプロトコル」(P.13-8) を参照)。デフォルトでは、プルーニングが許容される VLAN のリストに、VLAN 1 を除くすべての VLAN が含まれます。
ステップ 9	Switch(config-if)# no shutdown	インターフェイスをアクティブにします (インターフェイスをシャットダウンした場合だけ)。
ステップ 10	Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 11	Switch# show running-config interface {fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 12	Switch# show interfaces [fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet] slot/port switchport	インターフェイスのスイッチ ポート設定を表示します。
ステップ 13	Switch# show interfaces [{fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port] trunk	インターフェイスのトランク設定を表示します。

次に、インターフェイス FastEthernet 5/8 を 802.1Q トランクとして設定する例を示します。この例では、近接インターフェイスが 802.1Q トランキングをサポートするように設定され、ネイティブ VLAN のデフォルトが VLAN 1 に設定されているものとします。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/8
Switch(config-if)# shutdown
Switch(config-if)# switchport mode dynamic desirable
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# end
Switch# exit
```

次に、実行コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/8
Building configuration...
Current configuration:
!
interface FastEthernet5/8
```

■ レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

```
switchport mode dynamic desirable
switchport trunk encapsulation dot1q
end
```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet 5/8 switchport
Name: Fa5/8
Switchport: Enabled
Administrative Mode: dynamic desirable
Operational Mode: trunk
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: Enabled
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
```

次に、トランクの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show interfaces fastethernet 5/8 trunk

Port      Mode      Encapsulation  Status      Native vlan
Fa5/8     desirable n-802.1q       trunking    1

Port      Vlans allowed on trunk
Fa5/8     1-1005

Port      Vlans allowed and active in management domain
Fa5/8     1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-802,850,917,999,1002-1005

Port      Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned
Fa5/8     1-6,10,20,50,100,152,200,300,303-305,349-351,400,500,521,524,570,801-802,850,917,999,1002-1005

Switch#
```

レイヤ 2 アクセス ポートとしてのインターフェイスの設定



(注)

存在しない VLAN にインターフェイスを割り当てると、VLAN データベースにその VLAN を作成するまで、インターフェイスは機能しません（「[グローバル コンフィギュレーション モードでの VLAN の設定](#)」(P.13-5) を参照）。

インターフェイスをレイヤ 2 アクセス ポートとして設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } slot/port	設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# shutdown	(任意) 設定が完了するまでトラフィックを流さないようにするため、インターフェイスをシャットダウンします。

コマンド	目的
ステップ 3 Switch(config-if)# switchport	インターフェイスをレイヤ 2 スイッチング用に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスをレイヤ 2 ポートとして設定するには、キーワードを指定せずに switchport コマンドを 1 回入力する必要があります。そのあとで、キーワードとともに他の switchport コマンドを入力してください。 • それまでにインターフェイスに対して no switchport コマンドを入力している場合にだけ必要です。
ステップ 4 Switch(config-if)# switchport mode access	インターフェイスをレイヤ 2 アクセス ポートとして設定します。
ステップ 5 Switch(config-if)# switchport access vlan vlan_num	インターフェイスを VLAN 内に配置します。
ステップ 6 Switch(config-if)# no shutdown	インターフェイスをアクティブにします (インターフェイスをシャットダウンした場合だけ)。
ステップ 7 Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8 Switch# show running-config interface {fastethernet gigabitethernet} slot/port	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 9 Switch# show interfaces [{fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet} slot/port] switchport	インターフェイスのスイッチ ポート設定を表示します。

次に、インターフェイス FastEthernet 5/6 を VLAN 200 のアクセス ポートとして設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/6
Switch(config-if)# shutdown
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport access vlan 200
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# end
Switch# exit
```

次に、実行コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/6
Building configuration...
!
Current configuration :33 bytes
interface FastEthernet 5/6
  switchport access vlan 200
  switchport mode access
end
```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

```
Switch# show running-config interface fastethernet 5/6 switchport
Name:Fa5/6
Switchport:Enabled
Administrative Mode:dynamic auto
Operational Mode:static access
Administrative Trunking Encapsulation:negotiate
Operational Trunking Encapsulation:native
Negotiation of Trunking:On
Access Mode VLAN:1 (default)
Trunking Native Mode VLAN:1 (default)
Administrative private-vlan host-association:none
```

■ レイヤ 2 スイッチング用のイーサネット インターフェイスの設定

```

Administrative private-vlan mapping:none
Operational private-vlan:none
Trunking VLANs Enabled:ALL
Pruning VLANs Enabled:2-1001
Switch#

```

レイヤ 2 設定のクリア

インターフェイス上のレイヤ 2 設定をクリアするには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# default interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	クリアするインターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 3	Switch# show running-config interface { fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	Switch# show interfaces [{ fastethernet gigabitethernet tengigabitethernet } <i>slot/port</i>] switchport	インターフェイスのスイッチ ポート設定を表示します。

次に、インターフェイス FastEthernet 5/6 のレイヤ 2 設定をクリアする例を示します。

```

Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# default interface fastethernet 5/6
Switch(config)# end
Switch# exit

```

次に、レイヤ 2 設定のクリアを確認する例を示します。

```

Switch# show running-config interface fastethernet 5/6
Building configuration...
Current configuration:
!
interface FastEthernet5/6
end

```

次に、スイッチ ポートの設定を確認する例を示します。

```

Switch# show interfaces fastethernet 5/6 switchport
Name: Fa5/6
Switchport: Enabled
Switch#

```